

花園大学情報センター（図書館）・
今津文庫資料の調査報告

—大乘起信論・大乘經典写本断簡を中心に—

A Survey Report on Rare Materials in the Imazu Bunko Collection of
Hanazono University Library: Focusing on Manuscripts of the Awakening of
Faith and Fragments of the Mahayana Sutras

師 茂 樹 ・ 上 杉 智 英

花園大学情報センター(図書館)・今津文庫資料の調査報告 —大乘起信論・大乘經典写本断簡を中心に—

師茂樹(花園大学) 上杉智英(京都国立博物館)

はじめに

本稿は、2018年度、数回にわたって花園大学情報センター(図書館)の今津文庫に対して行なった調査の報告である。

今津文庫は、花園大学教授であった「故今津洪嶽博士(明治17年~昭和40年)が本学図書館に寄贈された書籍(和古書、自筆本が多数)及び古經典等約976タイトル」からなるコレクションである(花園大学図書館1982, 凡例)。今津氏の略歴については、『花園大学三十年のあゆみ』¹に以下の通り記されている。

今津洪嶽教授 一八八四年、岐阜県生れ、一九一二年東京真宗大学〔現・大谷大学—引用者注記、以下同じ〕研究院卒業後、更に奈良東大寺勸学院にて仏教学を研究、東京宗教大学〔現・大正大学〕、東京天台宗大学〔現・大正大学〕、東京豊山大学〔現・大正大学〕、東洋大学、駒沢大学、日本大学等の教授を歴任、一九四九年より臨済学院専門学校〔現・花園大学〕教授として赴任され洛西宇多野の妙光寺に住されていた。教授は臨済禅隠山・卓州両室内を究めたことを自負されており、代表的著書に『碧巖集講義』上・下、『金剛經講義』等がある。論文は枚挙に暇がない。一九六二年文学博士の学位記を授与された。教室では講義の始めには必ず「開經偈」と「仏祖の名号」を唱えられた。その頃の講義の内容は「宗教の二大類型」および「師資相承論」であった。(花園大学三十年史編集委員会1979, 261-262)

本稿に先行する調査報告としては、まず今津文庫全体の目録である花園大学図書館(1982)を挙げておきたい。この目録は、後述するように、書名の誤りなどの不備が見られる。近年の調査としては、中尾良信・新聞水緒(2007)がある。

また、今津文庫所蔵資料を用いた研究論文としては、早苗憲生（1983）、梅谷繁樹（1986）、柴崎照和（1990, 1997）、近本謙介（2010）、斎藤夏来（2013）、芳澤勝弘（2015）などがある。今津文庫の一部の資料は、「HUMICデジタル書庫」²としてインターネット公開されている。

2018年度に行なった調査の経緯は以下の通りである。

- 2018年6月6・20日、師茂樹が調査。
- 2018年10月3日、韓国・東国大学の研究グループ（代表：金天鶴教授）と合同で調査。³
- 2019年3月4日、京都国立博物館の羽田聡、上杉智英（本稿共著者）両氏と合同で調査。

今津文庫に収蔵される『大乘起信論』の写本・刊本については、以前から研究者のあいだで話題となることがあったが、本格的な調査が行われたことはなかったと思われる。共著者・師茂樹は、以前より学外の研究者から今津文庫所蔵資料についての問い合わせを受けており、手始めに『大乘起信論』関連資料に関する予備的な調査を2018年6月6日に行なった。その結果、目録上「奈良時代」の『大乘起信論』の写本とされていたZ1 貴/1018が『大乘起信論』ではないことが判明した（後述）。加えて、目録（花園大学図書館1982）にある他の情報についても再検討が必要なものが散見されることから、追加調査を行うことになった。その際、韓国・東国大学校や京都国立博物館など、外部の研究者の協力を得ることができた。

本稿は、以上の調査の一部に関する報告である。簡易的なものではあるが、研究者による資料の利用を促進し、本格的な研究がなされることを期待して、情報共有のために報告する次第である。今後も貴重書を中心に今津文庫の調査を継続し、目録情報の更新と公開、そして本稿のような調査報告などを随時行なっていきたい。

（師茂樹）

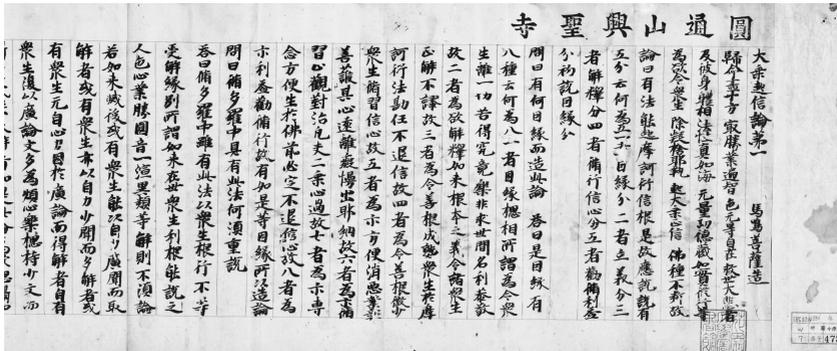
調査報告

以下、2018年度の調査結果の一部を報告する。事前に計画を立てて行なった調査ではなく、上記のような経緯によるものであるため、簡易的な調査報告となる点についてはご容赦いただきたい。

今回報告する資料に関して、花園大学図書館（1982）にある情報は以下の通りである。

請求記号	書名・ 編著者名	出版地	出版者	出版年	冊数	大きさ (本の縦 の長さ)	注記	目録頁 ⁴
Z1貴/1018	大乘起信論 第1 馬鳴造				1帖 (折本)	25cm	写	B-6
Z1貴/1141/2	大乘起信論 残闕			奈良時代	2枚	26cm	写	B-6
Z1貴/1141/3	古写経残闕				13枚			B-1
Z1貴/1141/4								
Z1貴/1141/5								
Z1貴/1141/6								
Z1貴/1141/7								
Z1貴/1141/8								
Z1貴/1141/9								
Z1貴/1141/10								
Z1貴/1141/11								
Z1貴/1141/12								
Z1貴/1141/13								
Z1貴/1141/14								
Z1貴/1141/15								
Z1貴/1172	古写経残闕紙 背文書				1枚	26cm		B-7

「目録中の和古書、古經典に関する書誌的事項の殆どは今津博士の鑑定結果に従って記されたものである」（花園大学図書館1982, 凡例）とのことであるが、後に述べるように、訂正すべき部分も少なくない。今後目録の改定などが必要となろうが、上表では目録の通りに記載している。（師茂樹）



第一紙の界線の上に「圓通山興聖寺」の印があることから、もともと興聖寺（臨済宗興聖寺派本山、京都市上京区）に所蔵されていたものであることがわかる。現在は折本となっているが、元は卷子本だったと思われる。興聖寺一切経（興聖寺本）は、七寺一切経、金剛寺一切経などと並んで、現在、研究者の注目を集めている。興聖寺本『大乘起信論』の存在が明らかになったことの学術的な意義は小さくないと思われる。

京都府教育委員会（1998）に基づく国際仏教学大学院大学「日本古写経データベース」⁵では、興聖寺一切経中に『大乘起信論』は存在しないことになっている。何らかの形で興聖寺から今津氏の手に渡り、今津文庫として花園大学図書館に収蔵されたと思われるが、具体的な経緯は不明である。「今津洪嶽先生略年譜」（今津洪嶽1966）によれば、昭和20（1945）年5月25日、「東京、千駄ヶ谷一丁目一番地の寓居、戦災に罹って全焼」、同22（1947）年に「日本大学を辞任して京都妙光寺に帰る」とのことなので、それ以降に入手した可能性が高そうであるが、確証はない。

今津氏が本資料を入手した経緯に関連して指摘しておきたいのは、今津氏が東大寺勸学院で修学したことで、1962年に大谷大学に提出された博士論文『師資相承論の研究』以外にもう一つ、幻の博士論文があったことである。後者については、次のような新聞記事がある。

今津老師は岐阜県の農家の出身。真宗の大学に学んだのち、奈良東大寺の勸学院で華嚴仏教をきわめた。大正年間、東洋、駒沢各大学の教授、東大助教授を勤め、大正十年に一度現在の仏教の起源を研究した「大乘起信論成立に関する論文」を東大に提出、当時仏教学者間の注目を集めたが論文が審査されているうち、関東大震災で論文が消失して博士号は得られなかったという。（『朝日新聞』昭和36年12月25日「77歳の高僧に文学博士号 京都妙光寺住職の今津洪嶽さん」）

事実「大乘起信論成立に関する研究」という学位請求論文で、大正十年に、すでに同氏は学位を取得しているはずであった。この論文が東京帝国大学へ提出されたときある新聞に姉崎正治氏は「彼の背丈以上もある大部な研究は、きっと学位審査にパスするだろう」と意見を発表した。これが問題の発端。姉崎氏と、望月信享氏と共に佛教大辞典を編さんしていた高橋順次郎氏が、弟子の取り合い、から対立し、学閥の関係から審査がのびのびになっている間に大正十二年の関東大震災。彼の背丈以上もある大部な研究、もオクラの中で灰になり、陽の目を見ずじまいに終わった。（『中外日報』昭和37年3月4日「博士様さまゴールイン ③今津洪嶽氏=いまず・こうがく=花園大学教授・佛教学」）

これらの記事にあるように、今津氏は『大乘起信論』についての博士論文を書いていたのである。

先の引用に「代表的著書に『碧巖集講義』上・下、『金剛經講義』等がある」とある通り、禅学に関する研究の蓄積も相当なものであったようだが、今津氏の業績には華嚴教学に関するものが多く、編纂に参加した「仏教大系」（仏教大系刊行会、1918-1939）においても『大乘起信論』『華嚴金獅子章』『華嚴法界義鏡』が収録された第一巻の編集・解題を担当するなど、『大乘起信論』や華嚴教学に関するエキスパートとしても知られていたことが推察される。本稿において報告している今津文庫所蔵の資料は、このような今津氏の修学・研究に関連して戦後になって今津氏の手に渡り、花園大学図書館に所蔵されるようになったのではないかと推測される。

なお、『大乘起信論』は、興聖寺の創建にも大きく関わっている。『続日本高僧伝』巻三所収の「城州興正寺沙門円耳伝」によれば、興聖寺の開山である虚応円耳（1559-1619）はもともと日蓮宗の学僧であったが、『大乘起信論』をきっかけとして「心体離念相に到り、忽然として契悟」、慶長4（1599）年9月に慧能、黄檗、臨済の霊夢を得て「盛んに曹溪の道を唱える」ようになったという⁶。その意味でも、本資料の価値は高いと言えよう。

（師茂樹）

Z1 貴/1141/2 大乘起信論 残闕



『釈摩訶衍論』であることが判明⁷。『釈摩訶衍論』は『大乘起信論』の注釈書ということになっており、写本の冒頭が『大乘起信論』本文と一致するため、勘違いしたものと思われる。

断簡a. 縦23.5cm×横15.4cm 残存8行 1行17字前後（16～18字）

淡墨界 界高19.7cm 界幅1.9cm 天界2.1cm 地界1.7cm

内容：大正蔵32、p.619c、l.24～p.620a、l.4

1-2行間、折れ跡あり。

朱点（圓堂点）。

断簡b. 縦23.5cm×横13.0cm 残存7行 1行17字前後（16～18字）

淡墨界 界高19.7cm 界幅1.9cm 天界2.1cm 地界1.7cm

内容：大正蔵32、p.619c、l.17～24

1-2行間、折れ跡あり。

朱点（圓堂点）。

内容上、断簡bと断簡aは間断なく接続し、一連の全15行が残存していることとなる。両断簡を接続することで、通し行数の1-2行間（断簡bの1-2行間）から通し行数の8-9行間（断簡aの1-2行間）の折れ幅13.2cmが確認され、この『釈摩訶衍論』が一時、7行折の折帖であったことが知られる。

書写時期については、断簡で情報が限られている為、判断することは困難であるが、字体より言えば、「分」「凡」「満」に古態がみられる。ただし、その書風は奈良時代の写経生らによる謹厳なものとは異なり、やや崩した柔らかい筆運びが見られ、奈良写経の流れを受けた平安時代初期、9世紀の特徴が見て取れる。推測される書写時期よりすれば、当初の形態は卷子本であったと考えられる。

なお、本断簡のツレ（同一本からの切り出し）とみられる経切が、古書即売会の目録やネットオークション等（1～4は2019.10.7アクセス、5は2019.11.10アクセス）に散見する（字体、書風、朱点、附属の小紙片より判断した）。

1. 経切二行（T1668, 32, 614c8-10）

「浄智親所内證復次真如各有十義如何十
真一者根字事真乃至第十惣字事真如是」

極め札様の小紙片「弘仁時代〈釈摩訶衍論／朱ノオコト点アリ〉」を附す。

（『新興古書大即売展略目』91頁、令和元年6月21・22日、於東京古書会館。HP「ヤフオク！」、
<https://page.auctions.yahoo.co.jp/jp/auction/u286287494>）

2. 経切二行（T1668, 32, 615a9-11）

「種浄智親所内證相應俱有不相捨離二虚
空中當何虚空謂清浄虚空非染浄虚空染」

極め札様の小紙片「弘仁時代〈釈摩訶衍論／朱ノオコト点アリ〉」を附す。

（HP「Aucfree」、<https://aucfree.com/items/r332532852>）

3. 経切二行（T1668, 32, 620c14-16）

「不自起故當資無明之力方得而起根本無

明不自轉故要因真心之力方得而轉如水」

極め札様の小紙片「弘仁時代 〈釈摩訶衍論／朱ノオコト点アリ〉」を附す。

(HP「ヤフオク!」、<https://page.auctions.yahoo.co.jp/jp/auction/f377574256>)

4. 経切二行 (T1668, 32, 620c29-621a2)

「顕示合説如其次第應配属焉大海風水從

誰而生謂從龍王生故各從何處而生所謂」

(HP「城南山人の古代文字書道王国」、<http://www1.odn.ne.jp/j-kingdom/38.html>)

5. 経切二行 (T1668, 32, 620c16-18)

「不自作波浪故當因風之力方得作波風不

自現動相故要資彼水方得而現動轉相故」

極め札様の小紙片「弘仁時代 〈釈摩訶衍論／朱ノオコト点アリ〉」を附す。

上の3に接続。

(HP「ヤフオク!」、<https://page.auctions.yahoo.co.jp/jp/auction/c769543192>)

1・2・3・5には、同筆の小紙片が附されており、その筆跡から京都、藝林
荘の先代の極めと思われる。 (上杉智英)

Z1 貴/1141/3～15 古写経残闕

目録上「古写経残闕」となっていたZ1 貴/1141/3～15の内容は以下の通り。それぞれ異なる写本から切り取られたものと思われるが、詳細な調査は後日を期したい。

請求記号	文献名
Z1 貴/1141/3	『大般若波羅蜜多經』 卷415もしくは卷490断簡
Z1 貴/1141/4	『大般若波羅蜜多經』 卷389断簡
Z1 貴/1141/5	『大般若波羅蜜多經』 卷521断簡
Z1 貴/1141/6	『大般若波羅蜜多經』 卷443断簡
Z1 貴/1141/7	『大般若波羅蜜多經』 卷175断簡
Z1 貴/1141/8	『大般若波羅蜜多經』 卷521断簡
Z1 貴/1141/9	『大般若波羅蜜多經』 卷228断簡
Z1 貴/1141/10	『大般若波羅蜜多經』 卷561断簡
Z1 貴/1141/11	『大般若波羅蜜多經』 卷457断簡
Z1 貴/1141/12	『大般若波羅蜜多經』 卷104断簡
Z1 貴/1141/13	『大般若波羅蜜多經』 卷443断簡
Z1 貴/1141/14	『菩薩瓔珞本業經』 卷上断簡
Z1 貴/1141/15	『妙法蓮華經』 卷2断簡

(師茂樹)

Z1 貴/1172 古写経残闕紙背文書

表面（古写経残闕）は『大方等大集經』 卷13断簡である。裏面（紙背文書）は書簡と思われる文書であるが詳細は不明。今後調査を行いたい。

(師茂樹)

まとめ

以上、雑駁ではあるが、2018年度の調査の報告、である。今回の調査結果をふまえると、下表の下線部のように訂正すべきであろう。

請求記号	書名・ 編著者名	出版地	出版者	出版年	冊数	大きさ (本の縦の 長さ)	注記	目録頁
Z1貴/1018	大乘起信論 第1 馬鳴造				1帖 (折本)	25cm	興聖寺 一切経	B-6
Z1貴/1141/2	釋摩訶衍論卷 第三 断簡			平安初期	2枚	23.5cm	旧情報: 大乘起 信論 残闕(奈 良時代)	B-6
Z1貴/1141/3	大般若波羅蜜 多經卷四一五 もしくは卷四 九〇 断簡				1枚			B-1
Z1貴/1141/4	大般若波羅蜜 多經卷三八九 断簡				1枚			
Z1貴/1141/5	大般若波羅蜜 多經卷五二二 断簡				1枚			
Z1貴/1141/6	大般若波羅蜜 多經卷四四三 断簡				1枚			
Z1貴/1141/7	大般若波羅蜜 多經卷一七五 断簡				1枚		旧情報: 古写経 残闕	
Z1貴/1141/8	大般若波羅蜜 多經卷五二二 断簡				1枚			
Z1貴/1141/9	大般若波羅蜜 多經卷二二八 断簡				1枚			
Z1貴/1141/10	大般若波羅蜜 多經卷五六一 断簡				1枚			
Z1貴/1141/11	大般若波羅蜜 多經卷四五七 断簡				1枚			
Z1貴/1141/12	大般若波羅蜜 多經卷一〇四 断簡				1枚			

請求記号	書名・ 編著者名	出版地	出版者	出版年	冊数	大きさ (本の縦の 長さ)	注記	目録頁
Z1貴/1141/13	大般若波羅蜜 多經卷四四三 断簡				1枚		旧情報: 古写經 残闕	B-1
Z1貴/1141/14	菩薩瓔珞本業 經卷上 断簡				1枚			
Z1貴/1141/15	妙法蓮華經卷 二 断簡				1枚			
Z1貴/1172	大方等大集經 卷一三断簡 (表) 紙背文 書 (裏)				1枚	26cm	旧情報: 古写經 残闕紙 背文書	B-7

今後も調査を継続する予定なので、今回の報告内容は修正される可能性がある。

(師茂樹)

参考文献

- 今津洪嶽 (1966). 宗教の二大類型と師資相承論. 京都: 花園大学.
- 梅谷繁樹 (1986). 花園大学図書館・今津文庫蔵『法燈国師年譜略并縁起全』をめぐって:
資料紹介とその絵解・唱導との関連. 園田語文, 創刊号, 33-45.
- 京都府教育委員会 (1998). 興聖寺一切經調査報告書. 京都府古文書調査報告書第十三集.
- 斎藤夏来 (2013). 石見安国寺誌・国苑掌鑑. 研究集録, 岡山大学大学院教育学研究科学
術研究委員会編, 154, 1-15. URI: <http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/51924>
- 早苗憲生 (1983). 資料紹介 今津文庫所蔵『由良開山法燈円明国師法語』. 禪學研究, 62,
99-123.
- 柴崎照和 (1990). 今津文庫蔵『法金剛院雜記』所収「禪爾和尚涼燠傳草案」. 禪學研究,
68, 171-208.
- 柴崎照和 (1997). 明恵と『華嚴経伝記』. 華嚴学論集, 鎌田茂雄博士古希記念会編, 東京:
大東出版社, 875-891.
- 近本謙介 (2010). 解脱房貞慶の唱導の多面性と意義: 今津文庫所蔵『解脱上人御草』所
収「南京北山宿非人等敬白」をめぐって. 説話文学研究, 45, 126-138.
- 中尾良信・新聞水緒 (2007). 今津文庫調査報告. 花園大学文学部研究紀要, 39, 17-34.
- 花園大学三十年史編集委員会 (1979). 花園大学三十年のあゆみ. 京都: 花園大学.
- 花園大学図書館 (1982). 今津文庫目録. 花園大学図書館蔵. 京都: 花園大学図書館.

¹ 略歴と業績一覧については今津洪嶽 (1966) 参照。

² <https://www.hanazono.ac.jp/DArchives/e-shoko/html/top0.html>

³ 東国大学校との合同調査の結果の一部は、来年度の本誌に投稿予定である。

⁴ 花園大学図書館 (1982) は、途中からページ番号がふり直されているため、前半のページ番号はA-○とし、後半はB-○とした (今回は後半のみ)。

⁵ <https://koshakyo-database.icabs.ac.jp>

⁶ 大日本仏教全書64, 21b 3 -22a 1。大竹晋氏のご教示による。

⁷ 以下、翻刻を示す。

○断簡a 翻刻 (T1668, 32, 619c24-620a4に相当)

故破和合識相減相續心相顯現法身智淳
淨故何故三賢及十信位略不顯示比來次第
分明顯故今此門中最初對治根本無明乃
至最後對治減相爲欲簡異始覺般若悟次
第故何故始覺背凡向聖上上去去爲次
第轉隨染本覺背聖向凡下下來來爲次第
轉以法爾故如是二轉當一時耶當前後耶
決定一時即無前後如是等義何契經中明了

○断簡b 翻刻 (T1668, 32, 619c17-24に相当)

始來自然常住不始而起如是二中依法力
勲習滿足方便力故破根本無明及獨力業
相依如實修行滿足方便力故減俱合業相
能見相及與現相分別智相并相續相破根本
無明獨力業相故自性身體分明現前減俱合
相等相續故般若實智淳淨明白如本智淨
相者謂依法力勲習如實修行滿足方便